

大阪ニュースワイド4

OSAKA:



人に寄り添う情報空間を探求



マルチメディアデータ工学専攻
西尾章治郎理事・副学長(57)

こんにちは
研究室

毎日利用する駅へ向かう途中、「電車が遅れています」と伝えてくれる。高齢者がいつも通る道と違う道を通ったとき、「道、間違っていますか」と教えてくれる。高度に情報化された近未来。

情報技術が人の生活にとけ込み、人にとって心地よい情報環境を構築する「アンビエント情報環境」に向けた研究を進めている。

「高齢者や子供の見守りなど、安心の社会のための情報環境づくりを続けたい」と話す西尾教授

電気自動車



電気自動車のビジネス化をテーマにスタート講座
=大阪市北区(志儀駒)

問い合わせは、ATC工
・ジレスセンター「大人の
ための鉄道模型講座」係
(アクセス06-6615
・5240、☎06-6615
・5123)。

NPO法人(特定非営利活動法人)の
地域基盤技術継承プラザ(東大阪市)
は、11月2日からクリエイション・コア
A(ファクトリー・オーテムーション)
ソフトウェア・エンジニア基礎科の受
講者を募集している。

失業した非正規労働者や長期失業者など、原則として雇用保険が受給できない人を対象に再就職に役立つ教育を行う国

会の「写し絵」だと考える。

そのためには、データをきちんと整理すると同時に、規則性やルールを発見する「データ発掘(データマイニング)」研究がデータベースの分野では大きなテーマだ。

もっとも、こうした機能は「余計なお世話」と思う人もいるかもしれない。そのためには、データをきちんと整理すると同時に、規則性やルールを発見する「データ発掘(データマイニング)」研究がデータベースの分野では大きなテーマだ。

津波が来るのを察知すると象がくさりを断ち切って山へ登る、など自然災害の予兆として報告されている現象があるが、阪神・淡路大震災で報告された自然界の異常現象の事例をデータベース化し、規則性などを解析して異常現象と大地震との関連について論じたことは地震予知に貢献する応用研究となつた。

これらのデータベース研究を基礎としたよりよい空間づくりは、大阪・梅田北ヤード再開発の環境整備に応用される予定だ。キャッシュコンピュータ「アンビエント・ライフスタイル」とし、最新技術によって居心地のよさを感じる都市環境をつくることを目指す。

「今必要な情報を察知して肩をトンとたたくように知らせてくれる。歩いていて、あるボードの前を通ると、その人にとって本当に大事な情報が『さりげなく』リアルタイムで得られるというのが目指す究極の情報空間です」

(高瀬真由子)

素材は全て天然由来のもの。安心の国産グルコサミン&カルシウム。

国産グルコサミン

国産カルシウム

山登

71歳